

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「ある取調室にて」

テーマ：「無実なのに、何故か釈放されたくない美少女」

キャラクター

40

ストーリー

35

テーマ(設定)

45

文章力

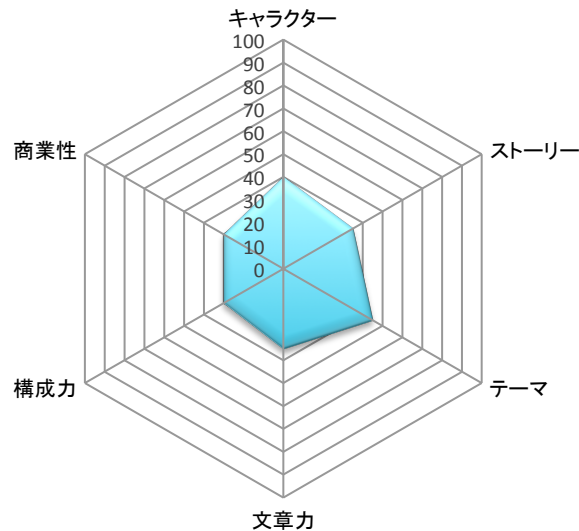
35

構成力

30

商業性

30



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語が都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がりに欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・冤罪で捕まり無実を主張する作品はありふれている分、無実なのに有罪を主張するというテーマは非常に斬新で面白い。+2
 ・最大の論点として、オチがこれでよいのかという問題点が残る。中盤までの取調室における意見がころころと変わっていく様は読んでいる側に「このあとどうなる」と思わせる効果があったように感じたが、それとこの謎を残すオチとの関連性があまり感じられないため、どうしても「このオチどういう意味? 気になる!」というよりは、「え、どういうこと? よく分からない……」という冷めた印象を受け取らざるを得ない。その意味でオチはもう少し分かり易く、中盤までのストーリーラインの延長線上に設置してほしかったと感じる。

合計加点ポイント: 2

総得点: 215 / 600

B方式総合得点: 7904 点